

平成24年度 新潟市立図書館施策・事業評価シート

※ ◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。  
◆館の重点評価項目は、中央図書館が重点的に取り組んだ事業。

中心図書館名：豊栄図書館

区分	事業名	事業概要	実施結果	評価		
				自己評価		外部評価
課題解決型図書館	◇全館共通評価項目					
	・レファレンスサービスの充実	・市民に身近な生活課題解決のため、レファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	・レファレンス件数は、平成21年度270件、22年度260件、23年度243件で、減少傾向が続いていたが、24年度は766件と大幅増となった。	窓口業務委託業者の①レファレンス統計の取り方の徹底、②接遇の向上によりレファレンス件数が飛躍的に伸びた。さらにレファレンスについて、お客様にどうお手伝いができるか、という基本的なところから機会を捉えてPRし、充実を図りたい。	1 大変評価する。 100% 2 ある程度評価する。 0% 3 評価できない。 0%	・昨年度の反省を生かし、レファレン件数が大幅に増加したことを評価する。 ・レファレンスサービスは昨年同様利用者が分かりやすいよう効果的な案内を行ってほしい。 ・3倍増はすばらしい。 ・レファレンスは重要である。
分権型図書館	◆館の重点評価項目					
	・予約件数の増加	・全市オンライン化や資料回送を有効に活用し、利用者の利便性向上を図る。	・平成22年度実績 9,893件 ・平成23年度実績 22,706件 ・平成24年度目標 25,000件 これらに対して平成24年度実績は、27,188件と大幅増加となった。	平成22年12月、市立図書館全館がオンラインで結ばれたことにより、市内図書館の所蔵状況が1回のパソコン操作で把握できるようになった。またインターネットでの予約ができるようになって閉館時でも資料の予約が可能となる等利便性が向上し、予約数が増えた。また新規に利用者登録する際に、パソコン初心者でもインターネットから予約をかけられるようにわかりやすい説明書を配布している。それとともにコンピュータの操作等が得意でない方にも安心して使っていただけるようなサポートにも力を入れていきたい。	1 大変評価する。 100% 2 ある程度評価する。 0% 3 評価できない。 0%	・オンライン化によつての増加は大変良いことになったと思う。 ・オンライン化により利便性が向上している。
学・社・民融合型図書館	◇全館共通評価項目					
	・地域資料の収集	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を実施する。 ・特に福島潟についての資料収集に努める。	・郷土・行政資料蔵書冊数 H22実績 8,557冊 H23実績 8,744冊 H24目標 8,900冊 H24実績 8,958冊 ・郷土・行政資料貸出冊数 H22実績 2,384冊 H23実績 2,455冊 H24目標 2,500冊 H24実績 2,473冊	貸出冊数は目標に僅かに届かなかったが、蔵書冊数は目標をクリアすることができた。より利用の促進を図るためには、テーマ図書で紹介する、地域の意外な魅力が掲載されている本を紹介するなど工夫が必要。また、広報とよさかの記事検索等を容易にするデータベースを作成中(昨年度から継続)。	1 大変評価する。 33% 2 ある程度評価する。 67% 3 評価できない。 0%	・他の施設や機関と重複しない範囲で新潟水俣病関係の資料も収集されたい。 ・今後も地域の魅力が掲載されている本の紹介コーナーが必要。
学・社・民融合型図書館	◆館の重点評価項目					
	・ブックスタートの実施	・1歳誕生歯科健診会において、赤ちゃんと保護者に絵本の読み聞かせを体験していただく「ブックスタート」を実施する。	・平成22年度実績 未実施 ・平成23年度実績 538人(北区全体) (豊栄380人+北地区158人) ・平成24年度目標 400人 ・平成24年度実績 533人	目標値400人は1歳歯科検診受診対象者で、受診された方のほとんどがブックスタートも受けている。ブックスタート会場で図書館の利用案内をすると、0・1・2歳でも図書館を利用できることに驚かれることが多いので、ブックスタート会場での図書館利用者の掘り起しにも力を入れて行くことが必要。	1 大変評価する。 100% 2 ある程度評価する。 0% 3 評価できない。 0%	・歯科検診という場をとらえての試みが効を奏している。 ・ブックスタートは若い両親にとって絵本の楽しさを知ってもらえる良い機会。 ・図書館利用者が増加するような取り組みが必要。 ・ブックスタートを広く認知されるような活動にしてほしい。
学・社・民融合型図書館	◆館の重点評価項目					
	・各種講座の実施 ・学校図書館支援センター	・絵本講座、わらべうた教室 ・学校貸出図書搬送事業、職場体験受入(主に中学生)、施設見学受入、レファレンス対応、学校図書館司書への支援(学校訪問、実務研修、情報交換会等)	・平成24年度は絵本講座9回、わらべうた教室7回開催 ・学校貸出図書搬送1,917冊 ・職場体験4校8名 ・施設見学8校249名 ・学校レファレンス対応170件 ・学校訪問延べ46回 ・実務研修4テーマ9回 ・情報交換会なし ・出前おはなし会2回(219名)	・絵本講座は読み聞かせ等に興味を持っている方を対象に、わらべうた教室は未就園の親子を対象に行い、絵本やわらべうたに触れることができた。 ・学校図書館支援センターは学校訪問をはじめ、様々な支援を行い学校図書館をバックアップできた。(学校司書の待遇改善という課題は豊栄図書館単体では難しい)	1 大変評価する。 67% 2 ある程度評価する。 33% 3 評価できない。 0%	・各講座の実施は大変かと思いますが、今後も続け、絵本・わらべうた等に多くの人が触れてほしい。 ・学校支援センターとして良く取り組んでいる。
パートナーシップ型図書館	◇全館共通評価項目					
	・共催事業の実施	・市民との協働をいっそう推進するためボランティア・教育機関や民間団体と連携して事業を行う。	ボランティア団体との共催 ・春のおはなしリレー ・わくわく体験夏まつり ・おはなし会4回 ビュー福島潟との共催 ・秋の読書週間講演会	ボランティア団体との共催事業とともに、秋の読書週間ではビュー福島潟とタイアップした。動物絵本作家 故 藪内正幸さんの長男 竜太さんをお迎えし、講演会を開催した。定員100名のところ60名ほどだったが、来場者へのアンケートでは概ね好評だった。	1 大変評価する。 33% 2 ある程度評価する。 67% 3 評価できない。 0%	・たくさんの方が集まるようなネームバリューのある方を講師にするということも必要か。 ・講師の人選は良かったが、来場者が残念な結果だった。今後PRIに工夫が必要ではないか。 ・絵本作家の生い立ち、絵本が出来上がる工程等を知ることができ、とても良い講演会だった。 ・今後も絵本作家の講演会を続けてほしい。
パートナーシップ型図書館	◆館の重点評価項目					
	・共催事業以外のボランティアとの協働 ・図書館職員、ボランティアスタッフによる「おはなしのじかん」の実施	・配架・書架整理ボランティアとの協働。また、ボランティアへの参加を促進するため、図書館で活動中のボランティアの紹介、各種事業へのPRなどを積極的に行う。 ・図書館職員、ボランティアスタッフによる「おはなしのじかん」の実施。	・ボランティア団体の主導でわくわく体験夏まつりを開催することができた。その中で、豊栄図書館としては2回目となる雑誌のリサイクルを行うことができた。 ・古本市の収益と募金で34,707円は、日本赤十字社新潟市北区地区を通じて東日本大震災の義援金とさせていただきます。	・わくわく体験夏まつりの他にも、おはなしのじかん、配架書架整理等、図書館運営を協働で進めている。	1 大変評価する。 83% 2 ある程度評価する。 17% 3 評価できない。 0%	・ボランティアとの連携がとても良い。